

巣づくりの会 住まい

8

石川 恒夫

「使い捨て」せず

バウビオロギー（建築生物学）の考え方を広めるための課題は何でしょうか。

健康を害する住宅は許されません。吸放湿性能を持つ建材を使い、室内の温度・湿気の調和をつくりだしましょう。その建材の選択には、食品の選択と同じような注意深さがが必要です。

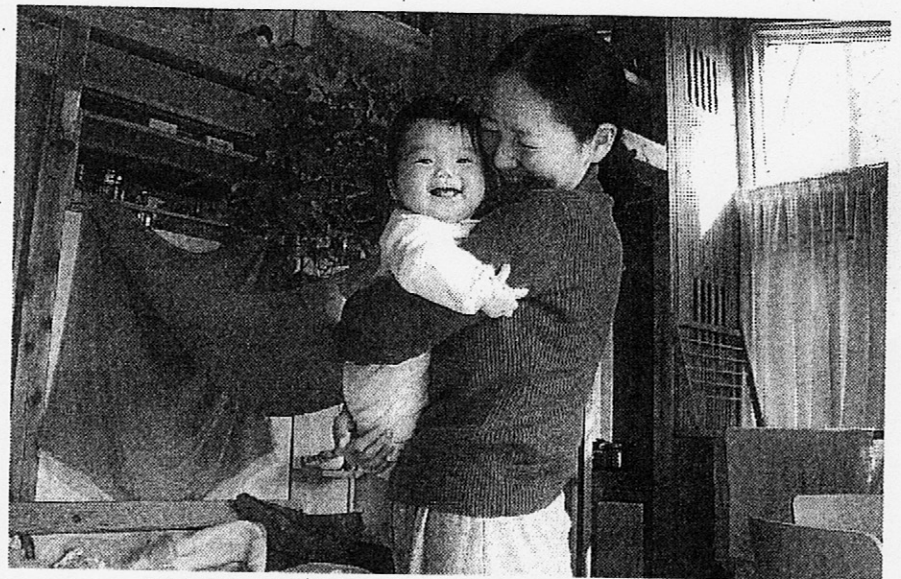
地球環境に負荷をかける住宅は許されません。結局、自らの安全や健康を脅かすことになるからです。「揺りかごから墓場まで」を念頭に、製造から廃棄までの道筋をたどってみましょう。資源を傷めない建材の選択が求められます。

短命な、使い捨て住宅

体と心、擁護する場所

は許されません。住まいづくりは百年の計で。これは企画や施行段階にも十分な時間をかけることも意味します。生み出される住まいへの思いを関係者が共有できることが望ましいでしょう。

エネルギーを浪費する住宅は許されません。必要な住宅設備は、再生可能なエネルギー（太陽エネルギー、地熱、バイオマスなど）によって稼働するものへ。自然のあり



バウビオロギーは、巣のように優しく命を包む住まいづくりを目指す

地球への負荷軽減を

ようを忘れた人工的な快適性は不健康のもので

全国で画一的な大量生産住宅は許されません。地域の自然風土（風の強

さ、方向、土地の湿気など）に合った住まいづくりを工夫しましょう。感覚をまひさせる一本調子を避け、多様な知覚体験を可能とする場所をつく

人間の尊厳回復

これらを踏まえて、未

べきか、時に迷うかも知れませんが、既成概念を吟味する意味で、バウビオロギーは自己意識的な決断を求めますが、それは精神存在としての人間の尊厳を取り戻すことでもあります。

「巣」をつくり、そこに住まうことは、生きていくために必要なことです。それは、栄養を摂取すること、衣服をまとうことと共に生命の基本的欲求です。住まいは身体の一部であり、自然の一部だからです。

日常の忙しさやストレスは、日々の生活の大きな負担となっています。それ故、現代人は肉体と魂と精神の擁護を求めるのであり、住環境こそ、その場を提供するものでありたいのです。

（前橋工科大学大学院准教授）

（おわり）